

波打ち際の温泉郷

山形県鶴岡市郊外の湯野浜温泉は、日本海の波打ち際に二十軒近い温泉ホテルや数軒の民宿が立ち並び、庄内地方有数の歓楽温泉だ。

目の前がすぐ海、そして背後に山が迫るといふ細長い土地にホテルや土産物屋、飲食店が軒を連ね、夏は泊まりがけの海水浴、冬は忘年会、そして農繁期のあとの農家の保養のメッカとして、近郷近在の人々に親しまれている。伝承としては九百五十年あまり昔の発見とされているが、明治時代にはすでに現在の規模に近い温泉郷が形成されており、木造ながら二階建て三階建ての温泉宿もあつて、古くから「庶民のリゾートスポット」であったことは間違いないうた。

かつて羽越本線鶴岡駅と湯野浜温泉の間には庄内交通湯野浜線という電車が走つていて、湯野浜への温泉客や沿線にある名刹善宝寺への参拝客を運んでいた。資料によると、昭和二十一年のこのローカル電車の利用客は二百四十五万人にのぼつたという。この数字が湯野浜温泉が古くからとてもにぎわつていたことを物語っている。



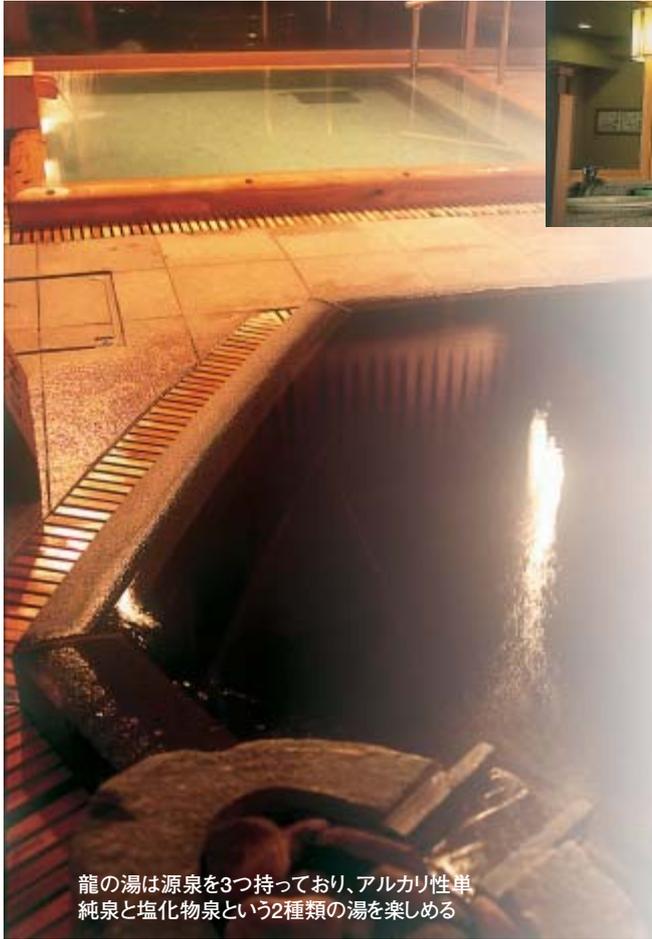
日本海の波打ち際に大型ホテルが林立する湯野浜温泉



山形県奥湯野浜温泉 龍の湯

みちのく
ココロとカラダの癒し旅

ナマコ壁を模した蔵風建築が気品を感じさせる龍の湯の外観



龍の湯は源泉を3つ持っており、アルカリ性単純泉と塩化物泉という2種類の湯を楽しめる



男女とも3つの湯舟を持つ広々とした露天風呂がある



大浴場の他に貸切家族風呂がある(45分1,050円)。段差のないバリアフリー仕様で身体障害者手帳持参の人は1日1回無料サービス



廃虚のような庄内交通旧善宝寺駅がわずかに“湯野浜電車”時代の面影をしのばせている



湯野浜温泉は曲がりくねった狭い道や密集した住居など、古き良き温泉情緒も残っている。温泉街なかほどのロータリーには新しく飲泉と足湯コーナーが

長逗留したくなる宿

龍の湯は湯野浜温泉の宿の一軒なのだが、他のホテルとは少し離れた内陸寄りの沢沿いにあつて、こだけ「奥湯野浜温泉」という呼称も使っている。湯野浜温泉中心部ににぎわいとは趣を異にする緑と静寂に包まれた落ち着いたある温泉宿だ。

温泉郷の多くの宿が明治のころからの歴史を持つ中で、こは初めて温泉が湧いたのが昭和三年と後発組(それでも十分に老舗だが)。それでも今でも常連客には「新湯」という名前のほうが通りがいのだという。

お湯は他の宿と共通の塩化物泉と、この宿だけの自家源泉からのアルカリ性単純泉の二種類が大浴場に引かれている。この湯が人々の心をつかんだようで、龍の湯は開業当初から三泊以上の湯治客がほとんどだったという。今でも毎年一月から三月初旬までは主に庄内地方の湯治客で満館状態になり、宿泊の予約をとるのも困難になるようだ。秋田からも、主に由利地方からのなじみ客が多いとのことだ。

龍の湯は昨年、七カ月間休業してハード面とソフト面を一新し、十二月にリニューアルオープンした。モットーとしている「何度でも通ってもらえる親しみやすさと抑えた料金設定」は従来の路線を貫きながら、現代感覚に溢れた高級感のある和風温泉ホテルの



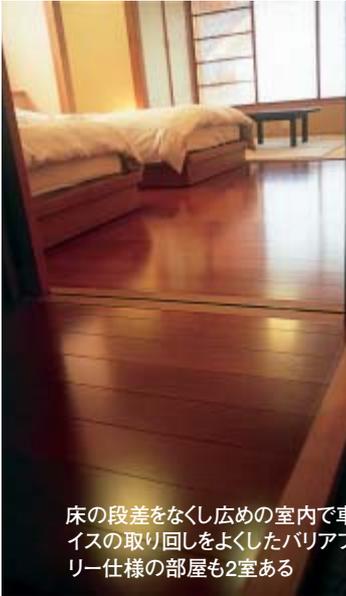
リニューアルに際して人気の足湯コーナーも新しく作られた



お湯は飲用にも適していて館内に飲泉コーナーがある



敷地内に移築された酒蔵を改装してギャラリーとして開放している



床の段差をなくし広めの室内で車イスの取り回しをよくしたバリアフリー仕様の部屋も2室ある



客室は全31室中21室が畳とベッドのある和洋室タイプになっている



テラスに人が出ると餌をねだって鯉が集まってくる



朝のテラスでくつろげばちょっとしたリゾート気分



ロビーの一角はのんびりと読書を楽しめるライブラリーに



客室はツインベッドと畳の間を備えた和洋室が基本。これは、お客のプライバシーを優先し、従業員が布団の上げ下ろしなどで客室に入らなくてもよくするためのアイデアだ。こういうお客本位のサービスが浸透してきたためか、最近では夫婦連れや恋人同士などのカップル客が多いのだとか。また、一人旅のお客や車イスの利用客も少なくない。床の段差をなくし、車イスを取り回すスペースを確保したバリアフリー仕様の客室は二室あり、同行者が体の不自由な人を介添えしながら入浴できる貸切家族風呂もある。

リニューアルした龍の湯で最も特徴的なポイントが、宿泊料金が一泊二食付きではなく一泊朝食付きという設定になっていることだ。夕食は館内レストランで豊富な和洋創作料理のメニューの中からお好みで選んで食べることになる。贅をつくした美食のコース料理もあれば一品料理や低廉な日替わり膳などもあり、温泉の魅力、部屋のかつろぎに加えて食事の楽しさも大きい宿なのだ。料理のチョイスによっては

趣も合わせ持つようになった。そのため、本物志向の旅なれた旅行者とバジヤマ姿の長逗留の湯治客が館内を行き交うという、ちょっと不思議な光景がこの宿の中では日常的に見られる。

客室はツインベッドと畳の間を備えた和洋室が基本。これは、お客のプライバシーを優先し、従業員が布団の上げ下ろしなどで客室に入らなくてもよくするためのアイデアだ。こういうお客本位のサービスが浸透してきたためか、最近では夫婦連れや恋人同士などのカップル客が多いのだとか。また、一人旅のお客や車イスの利用客も少なくない。床の段差をなくし、車イスを取り回すスペースを確保したバリアフリー仕様の客室は二室あり、同行者が体の不自由な人を介添えしながら入浴できる貸切家族風呂もある。

B&Bスタイルの料金設定で、夕食は館内レストランのメニューからお好みでチョイス。写真は主に連泊者向けの格安な「日替わり膳(980円)」



一品料理(上:庄内豚のしゃぶしゃぶ、左上:イチジクの利休煮、左:鱧と舞茸の朴葉焼)



善宝寺は海の守護、竜神を祭るお寺であり、海運、漁業関係者など全国に多くの信者を有し、年間を通して参拝客も多い。五重塔はわが国で唯一、魚の供養塔として建てられたもの

城下町鶴岡は歴史的建造物の宝庫でもある。ガイドマップ片手に市内散策も楽しい。写真は旧西田川郡役所



鶴岡市大山は秋田の山内杜氏にも影響を与えた昔からの酒どころ。出羽ノ雪酒造資料館を見学し試飲を楽しみたい



T A T S U N O Y U

施設のご案内

- 客室 31室(和室6・和洋室21・洋室4)
- 宿泊人員 120名様 ●駐車場 80台
- 大浴場 「水明の湯」男女各1
(打たせ湯・露天風呂・サウナ付き)
- 和風レストラン 「Dining 蟹(いらか)」
- 宴会場 「けやき」
- 会食室 「山吹」「馬酔木(あせび)」「桜」
- 湯上がり処・飲泉 ●足湯「陽だまり」
- 貸切家族風呂「木洩れ日」
- リラクゼーションルーム「うたたね」
- 多目的ホール「梢」
- カラオケBOX「どんぐり」
- 蔵ギャラリー「氷室」

お一人様 1泊朝食付き
(1・2泊) 7,750円より (税込)
(3泊以上) 6,610円より (税込)

Map



秋田の酒造業界にも影響を与えてい

湯野浜温泉から至近距離の善宝寺は竜神様をお祭りしていて、海運や漁業関係者の信奉あつく、全国から参拝客が訪れる。境内の五重塔は「魚鱗一切ノ供養塔」、つまり、魚を供養するために建立されたもので漁業関係者の発願による国内唯一の五重塔だ。

庄内の風土を楽しむ

「何度でも行きたくなる宿」「長逗留したくなる宿」を龍の湯が標ぼうし、実際にそういうお客がとても多いという現実、やはり一度足を運んで自分の五感で確かめてみるしかないかも。

その先の大山地区は酒造の歴史が古く、この土地で培われた酒造技術は

その先の大山地区は酒造の歴史が古く、この土地で培われた酒造技術は秋田の酒造業界にも影響を与えてい

るのだとか。「出羽ノ雪酒造資料館」はそんな大山の酒造の歴史を垣間見ることが出来る見学施設。
城下町鶴岡市は、古いものを大事にする気風があるのか、歴史的建造物が多く残されている。また、「蟬しぐれ」や映画にもなった「たそがれ清兵衛」で知られる作家藤沢周平は鶴岡の出身で、彼の作品にしばしば登場する東北の架空の小藩「海坂藩」は故郷鶴岡の情景が下敷きになっているといわれている。鶴岡の町並みを散策しながら藤沢作品の世界に浸ってみるのもいい。



〒997-1201
山形県鶴岡市湯野浜2-4-47
TEL.0235-75-2241(代)
Fax.0235-75-2243
HPアドレス <http://www.tatsunoyu.jp/>
Eメールアドレス info@tatsunoyu.jp

(文・写真IIかとつりゆえ)II秋田市)